

住まいの安全点検

子育て中のお母さんの3分の2は、子どもの事故を経験しているといわれています。

赤ちゃんの世界は、お母さんよりずっと低い目線ですから、赤ちゃんと同じ低い目線で安全点検を。逆に、ここなら大丈夫と思っていた高さにも、背伸びすれば届いてしまうということもあります。赤ちゃんの目の高さプラス30センチを目安に、安全点検してみましょう。



お部屋をチェック!

市販のセーフティグッズも上手に利用しましょう。

★引き戸・開き戸

引き戸用、開き戸用ロックも市販されています。

★ドア

このすき間に手をはさむことも多いのでご注意ください。

★テーブル

角がとがっているなら、やわらかい素材でガードしましょう。

★アイロン

使い終わったばかりの温度はなんと90度! コードが手の届くところにあると引っ張り危険です。

★加温器

吹き出し口から高温の蒸気が出るタイプもありますので安全柵で囲むなど直接触らないような工夫を。

★医薬品、化粧品

誤飲の危険がありますので手の届かないところへ。

★風呂場・洗濯機

水をためておかないこと。まわりに踏み台がわりになるものを置かない。子どもの手の届かない位置に鍵をつける。

★コンセント

市販のコンセントキャップで、感電防止を。

★暖房器具

ストーブやファンヒーターにはガードフェンスを使ってやけど防止対策を。

★おもちゃ

口にはいるような小さいものは与えないようにしましょう。

★タバコ

タバコはテーブルの上に絶対おかない。手の届かないところへ。

★テーブルクロス

引っ張ると危ないので、はずしておきましょう。

★炊飯器

蒸気の噴出しでやけどする危険が... 手の届かないところへ。

★すべり台

ひものついたバッグなどをかけておかないように。首や肩などが引っ掛かると、思わぬ事故を招きます。

★ガスレンジ

つまみをひねってしまうこともあります。ガスレンジガードを用意すれば安心。

★お鍋

とっ手は、横向きに。

★ボット

偶然ロックを解除してしまうこともあります。手の届かない場所に置きましょう。

★キッチン

中身の入った鍋や包丁など、手が届くところに置かないように。扉には安全ロックを。

★ベランダ

踏み台になるような、ポリバケツや植木の台などを置かない。

寝返りをはじめるころから多くなるのが、ベビーベッドやソファからの転落事故。ベビーフェンスも手をはさみやすいので、注意しましょう。

おすわり、ハイハイ、つかまり立ちができるようになると、赤ちゃんの行動範囲もさらに広がります。

誤飲は命にかかわることもあります。赤ちゃんの口の大きさは最大 39mm といわれており、これより小さいものは口に入ってしまう。たばこ、ボールペンのキャップ、ボタン、ボタン電池、小銭、画鋏、薬、化粧品、洗剤、殺虫剤など、大人が「まさか」と思うようなものまで、何でも食べちゃいます。

(P54「小児科医からのアドバイス」参照)

発育に応じた安全対策をすることはもちろん大切ですが、アレもダメ、コレもダメと取り上げるようでは、子どもの好奇心や自立性・判断力が育ちません。遊んでもいいもの、だめなものを区別して、くり返し教えてあげましょう。後からしかっても赤ちゃんには意味が分かりませんので、その場で教えることが大切です。

子どもの誤飲事故が起こったとき

処置がわからないときは、
かかりつけの医師や「中毒 110 番」へ

*「中毒 110 番」は化学物質（たばこ、家庭用品など）、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性の中毒について情報提供・相談を実施しています。異物を飲み込んでしまったとき、（小石、ビー玉など）や食中毒、慢性的な薬物中毒や常用量での医薬品の副作用については受け付けていません。

公益財団法人 日本中毒情報センター

大阪中毒 110 番
TEL.072-727-2499
365 日 24 時間対応

つくば中毒 110 番
TEL.029-852-9999
365 日 24 時間対応

相談する時の
ポイント

- ①子どもの月齢 ②いつ ③何を
④どのくらいの量を飲んだか ⑤現在の容態